



日本語



**EXOTIK PRE-AMPLIFIER**  
オーナーズマニュアル

## 安全に関する重要事項

製品のリアパネルまたは底面に付されたマークについて：



危険な電圧が存在することを警告するものです。  
感電を引き起こす可能性があるため注意が必要です。



説明書やサービスマニュアルにおいて、  
操作、メンテナンス、サービス上の重要な事項を示すマークです。

本機を主電源に接続する場合

### 注意

感電の恐れがあるため、カバーを取らないでください。

ユーザーが修理・調整すべき内部部品はありません。

サービスは有資格の技術者に一任してください。

電源プラグのヒューズは、同タイプ、同定格のものと交換してください。

ヒューズ交換は、電源コードを抜いてから行ってください。

### 警告

火災や感電事故を防止するため、本製品を雨にあてたり、湿気の多いところに置いたりしないでください。感電の危険があります。一開けないでください。

### 電源コードとプラグ

販売する国により、製品には改造不可の電源プラグが付いています。

交換用電源コードは販売店で求めください。プラグ交換が必要な場合、注意して処分してください。導線が露出したプラグをコンセントにつなぐと危険です。

茶色のワイヤはLiveピンに接続します。

青いワイヤはNeutralピンに接続します。

緑/黄色のワイヤはEarthピンに接続します。

少しでも疑問があれば、販売店か技術者にご相談ください。



製品のフューズおよび消費電力については、各製品のリアパネルあるいは底面をご参照下さい。

## 安全注意事項

1. 説明を読む：
2. 説明書を保管する：
3. 警告に従う：
4. 指示に従う：
5. 本機をバスタブ、洗面台、台所流し、洗濯槽などの近く、高湿度の地下室内、プールサイドなど、水のそばや湿気の多い場所では使用しないでください。
6. お手入れは、乾いたクロスで行ってください。
7. 換気口はふさがないようにください。製造者の指示に従って設置してください。適切な換気ができる位置と向きに設置してください。例えば本機をヘッド、ソファ、ラグなどの上に置くことは、通風口を塞ぐ恐れがあるため、避けるべきです。造り付けの書棚やキャビネット内も通風口からの空気の流れを妨げることがあるため、不適当です。
8. ラジエーター、ヒートレジスター、ストーブ（アンプを含む）などの熱を発生する物のそばに設置しないでください。
9. 安全性を高める分極プラグ、アース付きプラグの目的を遵守してください。分極プラグには一方が他より広い2つのブレードが付いています。アース付きタイプのプラグには、2つのブレードのほかアース用の突起があります。この3番目の突起は安全を守るためにあります。製品に付属するプラグがご使用のコンセントに合わない場合は、電気技術者に相談の上、旧型コンセントを取り替えてください。
10. 電源コードは、踏まれたり、他の物に引っかかったりしないように配置してください。特に、プラグ、電源コンセント、本体を出る個所に注意が必要です。
11. 製造者指定の付属品以外は使用しないでください。
12. スタンド、三脚、ブラケット、テーブルは、製造者指定の物、または本機と共に販売された物以外は使用しないでください。
13. 雷が鳴っているとき、また長期間使用しない場合は、本機器の電源プラグを抜いてください。
14. サービスは有資格の技術者に一任してください。電源コードやプラグの破損、製品内部に異物や液体が入ったとき、製品が雨や湿気にさらされたとき、正常に作動しないとき、あるいは製品を高いところから落としたりしたときなどは、専門技術者による修理調整サービスが必要となります。
15. 壁や天井への取付：壁や天井に取り付ける場合は、必ず製造者の指示に従ってください。
16. 電源：必ず、操作説明書や製品本体に記載されたタイプの電源に接続してください。
17. 電源プラグ：本体の主電源を切断するには電源プラグを抜いてください。電源プラグは常に手の届きやすい場所に設置します。本製品を使用していないときは、電源スイッチ（該当する場合）を使用してください。
18. 電線：屋外アンテナは、電線から離して設置してください。
19. 屋外アンテナの接地：本製品に屋外アンテナを接続する場合は、電圧サージと静電気蓄積から保護するために、アンテナをアースする必要があります。米国の場合、設置に関してはNational Electrical Code ANSI/NFPA 70の810項を参照してください。
20. 電話線：本製品は、特に指示のない限り、電話線に接続しないでください。
21. 異物や液体の混入：本機器内部に異物や液体を入れないでください。水しぶきがかかる場所に置かないこと。液体の入った容器を本機器の上に載せないでください。
22. 火のついたろうそくなどの裸火が本製品に触れないようにしてください。
23. 本製品は温帯気候や熱帯気候で使用できるよう設計されています。

## CE 遵守宣言

リン・プロダクツ・リミテッドは、本製品が低電圧に関する指令73/23/EEC および電磁互換性に関する指令89/336/EEC (92/31/EEC および 93/68/EEC により修正) に準拠することを明言いたします。

当該製品が73/23/EEC (LVD) 指令の規定に従っている事実、下記の各規準を遵守することにより証されています。

規準番号	制定年	試験形式
EN60065	2002	一般要件 マーキング 危険性のある放射物 通常条件における発熱 通常の作動条件における感電の危険 作動条件 絶縁要件 故障の要件 機械的な強度 電源に接続する部品 コンポーネント 端子装置 外部フレキシブルコード 電気接続と機械的な固定具 感電に対する保護 安定性と機械的な危険 耐火性

当該製品が89/336/EEC (EMC) 指令の規定に従っている事実、下記の各規準を遵守することにより証されています。

規準番号	制定年	試験形式
EN55013	2001	誘導排気
EN55013	2001	吸収排気
EN55020	2002	免責

## FCC 通告

### 注記

本機器は試験審査の結果、FCC 規則第15 部により、クラスB デジタル機器の限度内で作動することか認められました。この限度は、一般家庭用機器の設置における有害な干渉に対し、妥当な保護を提供するために定められたものです。本機器は、高周波エネルギーを発生、使用し、放射する可能性があり、指示に従って設置・使用されない場合、無線通信に干渉するかもしれません。しかし、特定の設置条件により干渉を起こさないという保証はありません。

本機器がラジオやテレビの受信を妨害するようであれば、本機器のスイッチを切ったり入れたりすることで、確認できます。次のような方法のひとつで、あるいはいくつかの方法の組合せで、干渉が改善されるかどうかお試しください。

- 受信アンテナの方向を変える。または位置を変える。
- 本機器とレシーバーの距離を離す。
- レシーバーが接続されている電源の回路とは別の電源に本機器を接続する。
- 販売店またはラジオ/テレビの専門技術者に相談する。

## 著作権と商標記載に関するお断り

Copyright © 2006 Linn Products Ltd. 2004 年4月初版

Linn Products Limited, Glasgow Road, Waterfoot, Eaglesham, Glasgow, G76 0EQ,  
Scotland, United Kingdom

すべての権利を留保します。発行者の書面による許可なしには、本書のいかなる部分も、いかなる形式であれ、また電子的、機械的、複写、録音、録画その他いかなる手段であっても、複製、使用可能な形で保存、転送をすることはできません。

Printed in the United Kingdom.

本書記載の商標について：Linn (リン) およびLinn のロゴは、Linn Products Limited の登録商標です。**EXOTIK**、**UNIDISK**、**KLIMAX**、**LIMBIK**、**KNEKT** はLinn Products Limited の商標です。

Dolby Laboratories とのライセンス契約により生産。「Dolby」「Pro Logic」「double-D」のマークは、いずれもDolby Laboratories の商標です。

「DTS」「DTS-ES」「Neo:6」「DTS 96/24」はDigital Theater Systems, Inc. の商標です。

本マニュアル記載事項は情報提供のみを目的としたもので、通告なく変更されることがあります。またリン・プロダクツ・リミテッドが内容を保証するものではありません。リン・プロダクツ・リミテッドは本マニュアルに誤りや不正確な記述があったとしても、それに対する責任を負うことはありません。

リン・プロダクツ・リミテッドでは、弊社以外の商標・商品名に対する所有権を主張することはありません。

<b>目次</b>			
<b>はじめに</b>	<b>1</b>	<b>操作</b>	<b>17</b>
音声フォーマット	1	スタンバイキー	17
<b>設置</b>	<b>1</b>	Ampモード	17
開 梱	1	ソースの選択	17
電源の接続	1	音声の調整	17
設置場所	2	音量	17
クリーニング	2	バランス	17
重要な情報 — フォノ入力	2	スピーカートリム	17
<b>セットアップ</b>	<b>3</b>	Lip Sync 遅延	18
背面パネル	3	サラウンドサウンドのフォーマット	18
接 続	4	深夜映画モード	20
セットアップメニュー	4	もとの音声設定に戻す	20
セットアップメニューの使用	5	レコーディング機能	21
Speaker Setup (スピーカー設定)	5	<b>仕様</b>	<b>22</b>
Source Setup (ソース設定)	7	<b>保証とサービス</b>	<b>23</b>
Audio Setup (音声設定)	9		
General Setup (一般設定)	10		
UNIDISK Source (UNIDISK ソース)	12		
Installer Menu (インストーラーメニュー)	13		
Linn UNIDISK プレイヤーとEXOTIK を接続して使用する	14		
<b>前面パネルとリモコン</b>	<b>15</b>		
前面パネルのディスプレイ	15		
前面パネルのレイアウト	15		
リモコン	16		

## はじめに

EXOTIK プリアンプは、ステレオ、マルチチャンネルの両方で、ソースからすばらしい音響パフォーマンスを生み出すよう設計されています。本製品は、表彰を受けたリン社の最高級品、KLIMAX KONTROL プリアンプ用に開発された技術を利用し、純粋な音響パフォーマンスを生み出すと共に、新世代のマルチチャンネルサウンドフォーマットへのアクセスとコントロールを実現しました。

EXOTIK の持つ多くの機能の中でも特に優れているのは、ターンテーブルや6つのアナログ入力および6つのデジタル入力と接続し Dolby Digital 5.1、Dolby Pro Logic II、DTS サラウンド、DTS 96/24 を含む、主要なオーディオアルゴリズムをすべて処理する内蔵phono stage です。

EXOTIK プリアンプは、更に前進したパフォーマンスとすばらしい品質で、リンのお客様をこれまでと同様にサポートし続けると共に、最新のテクノロジーや音声フォーマットを利用した新製品開発へもいち早く取り組んでいます。

## 音声フォーマット

EXOTIK が対応しているサラウンドサウンドフォーマットには、以下のものが含まれます。



Dolby Pro Logic II、Dolby Digital EX



DTS 96/24、DTS-ES

リン独自の LIMBIK Party 音声フォーマットに、これらが追加されています。

注記：

フォーマットの全リストについては、「操作」の「サラウンドサウンドのフォーマット」(18 ページ)を参照してください。

## 設置

### 開梱

製品には、以下の付属品が同梱されています。

- 蓄光リモコン
- リモコン用単4乾電池(2本)
- 接続ケーブル(黒)1組
- RS232コード  
(EXOTIKをLinn UNIDISKと接続し、2つの機器の間で通信できるようにするため)
- 電源コード
- 本マニュアル

将来の輸送などに備えて、梱包材や箱は保管しておいてください。

### 電源の接続

一般家庭の商用電源で作動しますから、電圧を選択する必要はありません。本機にはユーザーが交換できるヒューズは内蔵されていません。各国の規則に従って、電源コードにヒューズ入りプラグが付属している場合もあります。その場合、ヒューズ交換の際には必ず同タイプ・同定格のものを使用してください。



本機を主電源につなぐときは、必ずアースをしてください。付属のアース付き電源コードを使用してください。アースなしのプラグやアダプターは使用しないでください。

## 設置場所

EXOTIK はどんな場所 (19 インチラックを含む) にも手軽に置いていただけます。ただし、以下の点にご注意ください。

- リモコンからの信号を受ける赤外線センサー (前面パネルディスプレイウィンドウの裏側) は高感度です。誤作動を避けるために、本機は直射日光が当たらないところに置いてください。リモコンの赤外線ビームは磨りガラスも通りますから、たとえばキャビネットの曇りガラス越しの操作も可能です。
- 本機の上部と側面の換気孔を塞がないでください。
- ラジエーターやパワーアンプなど、熱を発生するものから離して設置してください。

## プラズマスクリーン、LCD スクリーンについての注意

- プラズマスクリーンと大型LCD スクリーンは赤外線周波を発生するため、放出された赤外線が本機の前面パネルディスプレイに当たった場合、リモコンによる本機操作に干渉する場合があります。EXOTIK を設置する際は、プラズマスクリーンまたはLCD スクリーンと向かい合わせにならないよう、また放出された赤外線が直接当たらないようご注意ください。通常、スクリーンの下または直接隣接する位置では、このような干渉を避けることができます。

## クリーニング

クリーニングは本機の電源ケーブルをコンセントから抜いてから行ってください。ホコリや指紋は柔らかいクロスで拭き取ってください。家庭用クリーナーなどのご使用はお控えください。

## 重要な情報 — フォノ入力

本機をシステムに設置する前に下記をお読みください。本機は再設定を必要とする可能性があります。

EXOTIK には、レコードターンテーブルとの接続を行うためのフォノ入力 (背面パネルに6/PHONO と表示) があります。ターンテーブルをお持ちでない場合も、下記の点を考慮願います。

6/PHONO は、moving-magnet (MM) phono stage、moving-coil (MC) phono stage、または追加の「line-level (ラインレベル)」入力として設定することが可能です。これらの用語説明は、下記の注をご参照ください。

出荷時には、6/PHONO はMM phono stage として機能するように工場設定されています。

6/PHONO をMC またはラインレベルモードでご使用になる場合、内部ハードウェアの変更が必要なため、お買い上げのLinn 販売店による作業が必要です。Linn の指定した関係者以外の人物による改造解体の場合は、保証が無効になります。

6/PHONO の現在の設定を知るには、本機のセットアップメニューからご確認いただくことができます。12 ページの「ANALOG 6 TYPE」をご参照ください。

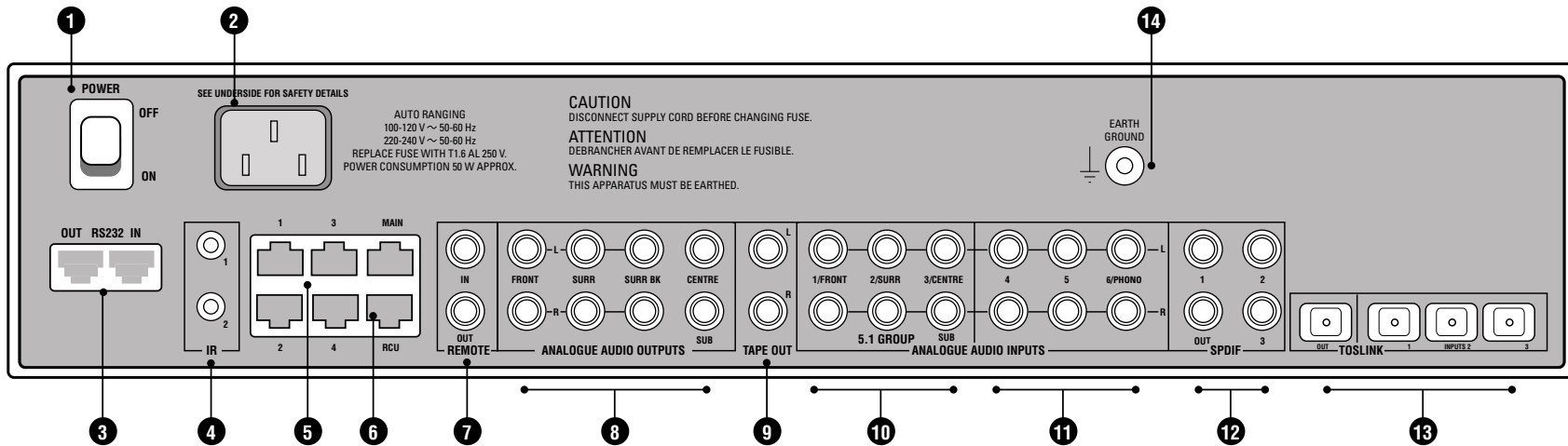
注記:

「moving-magnet」および「moving-coil」は使用可能な phono cartridge の2つのタイプです。ターンテーブルをお持ちでいずれのタイプのカートリッジを使用しているかご不明の場合、パッケージまたはメーカー公表の情報をご参照くださるかお買い上げの販売店にお問い合わせください。「line-level (ラインレベル)」入力はターンテーブル以外の音声ソース、すなわちCD プレイヤー、DVD プレイヤー、ラジオチューナー、衛星放送受信機などの接続用です。

Phono stage においては極端に低い信号レベルを増幅するため、細心の注意を払って扱わないと、ノイズや信号の劣化を受けやすくなります。Linn ではしたがって、本機の phono stage をスイッチまたはソフトウェアでの変更を可能にするのではなく配線接続された回路に設計しました。これは、最適なオーディオ性能を得るため、またこの最も精度の高い回路における信号の劣化を起こす可能性のあるスイッチのような部品を排除するためです。

# セットアップ

## 背面パネル



名称	機能	端子
<b>1</b> OFF, ON	電源スイッチ	-
<b>2</b> 名称・表示なし	電源入力	IEC
<b>3</b> RS232: IN, OUT	操作コマンドを EXOTIK へ入力または EXOTIK から出力。Linn UNIDISK プレイヤーなどの他の装置を EXOTIK で操作する場合、OUT 接続を使用。別のホームシアターコントローラーから EXOTIK を操作する場合、IN 接続を使用	2 x RJ12
<b>4</b> IR: 1, 2	赤外線コマンドを補助装置に出力	2 x 3.5 mm ジャック
<b>5</b> 1~4、MAIN	EXOTIK が Linn KNEKT システムの一部となる場合に使用	5 x RJ45
<b>6</b> RCU	本機を Linn KNEKT システムまたは赤外線リピーターに接続	1 x RJ45
<b>7</b> REMOTE: IN, OUT	Linn KNEKT システム内における RC5 in/out ローカルループ	2 x RCA

<b>8</b> ANALOGUE AUDIO OUTPUTS: FRONT L-R, SURR L-R, SURR BK L-R, CENTRE, SUB	7.1 アナログ音声出力1個。SURR (サラウンド) 出力は、5.1 システム内の2個のサラウンドスピーカーへの接続用。SURR BK (サラウンドバック) 出力は、7.1 システム内の部屋の後方に置く2個の追加スピーカーへの接続用。2チャンネルで使用する場合、FRONT 出力 (および必要に応じて SUB) のみをご使用ください	8 x RCA
<b>9</b> TAPE OUT: L-R	DAT レコーダーなどの録音機器への接続用アナログ出力1組	2 x RCA
<b>10</b> ANALOGUE AUDIO INPUTS: 5.1 GROUP - 1/FRONT L-R, 2/SURR L-R, 3/CENTRE L, SUB R	5.1 アナログ音声入力1個またはステレオアナログ音声入力3個	6 x RCA
<b>11</b> ANALOGUE AUDIO INPUTS: 4 L-R, 5 L-R, 6 L-R/PHONO	ステレオアナログ音声入力3個入力6/PHONO はターンテーブル接続用です	6 x RCA
<b>12</b> SPDIF:OUT, INPUTS 1~3	電気デジタル音声出力1個、電気デジタル音声入力3個	4 x RCA
<b>13</b> TOSLINK:OUT, INPUTS 1~3	光デジタル音声出力1個、光デジタル音声入力3個	4 x TOSLINK
<b>14</b> EARTH GROUND	必要に応じてターンテーブルのトーンアームケーブルからアースを取るためのものです。また主電源にアースが取れない場合、本機をアース端子に接続します	バインディングポスト




背面パネル端子プラグの取り付けや取り外しは、EXOTIK のスイッチを切ってから行ってください。これは電圧サージが発生して本機や他の AV 装置に損傷を与えるのを防止するためです。



## 接続

EXOTIK のセットアップでは、まず始めにソース、パワーアンプ、およびその他の周辺機器を EXOTIK に接続します。

1. EXOTIK とそれに接続するすべてのコンポーネントの電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
2. 前ページの背面パネル図を参照しながら、ソースコンポーネント、パワーアンプ、および使用するすべての通信/操作機器を接続します。
3. EXOTIK を電源に接続し、背面パネルのスイッチを使って本機に電源を入れます。本機は10秒間、自動的に設定が行われます。この間、ディスプレイには3つの点が表示されます。
4. 3つの点の表示が消えるのを待って、次に前面パネルカリモコンの  キーを押します。

設定作業では主に、EXOTIK を使用目的に合わせて設定します。これはセットアップメニューを使用して行います。本機の設定方法は、本章後続部分に説明しています。

### Linn UNIDISK プレイヤーと EXOTIK を接続して使用する

Linn UNIDISK プレイヤーとの接続・設定方法に関しては、14 ページを参照してください。

## セットアップメニュー

セットアップメニューにより、EXOTIK に接続するすべてのソース、システム内のスピーカー、およびその他の機器に合わせて EXOTIK を設定できます。本機の特長を生かすため、是非時間をかけて本機の設定を正しく行ってください。

セットアップメニューは5項目あり、以下のMAIN MENU (メインメニュー) から呼び出します。

### SPEAKER SETUP (スピーカー設定)

システム内のスピーカーの数、サイズ、距離に合わせて EXOTIK を設定し、音量レベルの校正を行います。

### SOURCE SETUP (ソース設定)

本機のソースを設定。

### AUDIO SETUP (音声設定)

本機の音声出力の設定。

### GENERAL SETUP (一般設定)

本機の一般設定を調整。

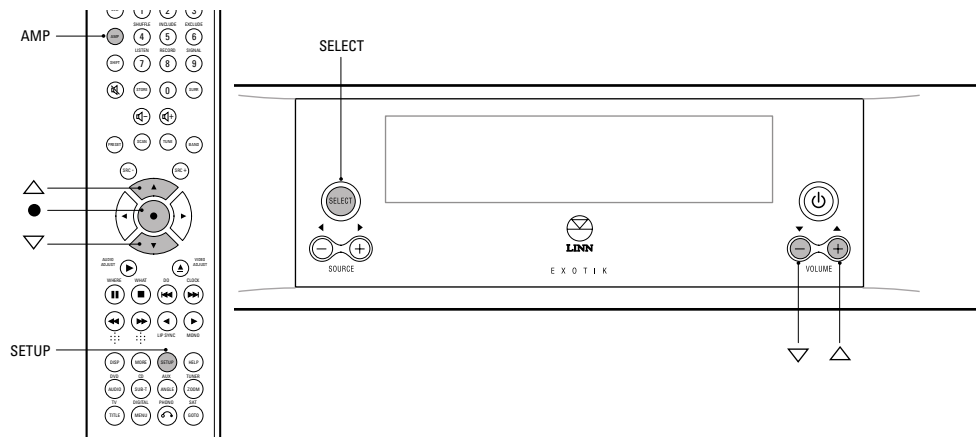
### UNIDISK SOURCE (UNIDISK ソース)

Linn UNIDISK プレイヤーを EXOTIK と接続して使用する場合に、入力設定を調整。

Linn UNIDISK プレイヤーが接続されている場合、MAIN MENU (メインメニュー) に UNIDISK プレイヤーのセットアップメニューへアクセスするための UNIDISK SETUP 項目もあります (14 ページの「Linn UNIDISK プレイヤーと EXOTIK を接続して使用する」を参照してください)。

さらに、EXOTIK には、上記のメニューで設定された本機器の設定内容を保存したり、工場出荷時の状態に戻したりするための INSTALLER MENU (インストーラーメニュー) があります。詳しい情報は、13 ページの「Installer menu (インストーラーメニュー)」をご覧ください。

## セッティングアップメニューの使用



### セッティングアップメニューを呼び出す:

リモコンを使用して本機の設定を行う場合、

- リモコンのAMPを押してからSETUPを押します。

前面パネルを使用して本機の設定を行う場合、

- MAIN MENU / SPEAKER SETUP がディスプレイに表示されるまで前面パネルのSELECTを押し続けます。



### メニュー、オプション間での選択を行う:

- リモコンか前面パネルの△/▽キーを使います。ディスプレイの矢印は、どのキーが使用できるのかを示しています。

### 選択決定する:

- リモコンの●または前面パネルのSELECTを押します。

### セッティングアップメニューから出る:

- リモコンのSETUPを押すか、メインメニューからEXITを選択します。(変更が完了すると、変更内容を保存するかどうかを聞かれます)。

## Speaker Setup (スピーカー設定)

### SIZE (サイズ)

SPEAKER SIZE (スピーカーサイズ) サブメニューを呼び出します。

お使いのシステムの(サブウーファーを除く)全てのスピーカーについて、スピーカーがLARGE、SMALLのどちらであるのかを本機に知らせる必要があります。これらの用語は、スピーカーの周波数特性に関するものであり、物理的なサイズが問われるわけではありません。LARGEとは、非常に低音域から非常に高音域までの周波数レスポンスが充分なスピーカーを指します。SMALLとは、非常に低音域の周波数レスポンスが充分でないスピーカーを指します(通常、80 Hz未満の周波数レスポンスが充分でないスピーカーをSMALLと呼びます)。

お持ちのスピーカーが非常に低音域の周波数にレスポンスするかどうかご不明の場合、スピーカーメーカー提供の情報やメーカー公表の情報をご参照になるか、お買い上げの販売店にお問合せください。

### SMALL FREQUENCY (制限低音域)

低音域が制限されるスピーカー(SMALL)の動作周波数を選択します。選択したオプションより低い音声信号内の周波数は、サブウーファーを使用している場合はサブウーファーに、使用していない場合はフルレンジ(LARGE)スピーカーのいずれかに振り分けて出力されます。(人の耳は低周波数の音源の位置を検知できないため、スピーカーのいくつかをSMALLに設定していても音楽や映画の楽しみには影響ありません)。

オプション: 40 Hz、60 Hz、80 Hz、100 Hz、120 Hz

デフォルト設定: 80 Hz

### FRONT (フロント)

大型(フルレンジ)のフロントスピーカーを使用しているとき、LARGEに設定します。低音域が制限されたフロントスピーカーを使用している場合、SMALLに設定します。

デフォルト設定: LARGE

### CENTRE (センター)

大型(フルレンジ)のセンタースピーカーを使用しているとき、LARGEに設定します。低音域が制限されたセンタースピーカーを使用している場合、SMALLに設定します。センタースピーカーを使用していない場合、NONEに設定します。

デフォルト設定: LARGE

### SURROUND (サラウンド)

大型 (フルレンジ) のサラウンドスピーカーを使用しているとき、**LARGE** に設定します。  
低音域が制限されたサラウンドスピーカーを使用している場合、**SMALL** に設定します。  
サラウンドスピーカーを使用していない場合、**NONE** に設定します。

デフォルト設定: **LARGE**

### SURROUND BACK (サラウンドバック)

大型 (フルレンジ) のサラウンドバックスピーカーを使用しているとき、**LARGE** に設定します。  
低音域が制限されたサラウンドバックスピーカーを使用している場合、**SMALL** に設定します。  
サラウンドバックスピーカーを使用していない場合、**NONE** に設定します。

デフォルト設定: **LARGE**

### SUBWOOFER (サブウーファー)

サブウーファーを接続している場合、**YES** に設定します。  
サブウーファーを接続していない場合、**NO** に設定します。

デフォルト設定: **YES**

**SAVE** を選択して変更を保存し、SPEAKER SETUP (スピーカー設定) メニューに戻ります。

**BACK** を選択し、変更を保存せずにSPEAKER SETUP (スピーカー設定) メニューに戻ります。

**EXIT** を選択し設定を終了します (変更を行ってSAVEを選択していない場合、変更内容を保存するかどうかを聞かれます)。

### DISTANCE (距離)

SPEAKER DISTANCE (スピーカー距離) サブメニューを呼び出します。

#### DISTANCE UNITS

スピーカー距離測定単位を選択します。

オプション: **FEET**、**METRES**

デフォルト設定: **FEET**

### SPEAKER DISTANCE (スピーカー距離)

システム内に設置されたすべてのスピーカーからのサウンドが確実に同時に届くようにするために、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離をEXOTIKに入力します。EXOTIKは、各スピーカーに適切な遅延を与えます。

お使いのシステムのすべてのスピーカーに対して、リスニングポジションからの距離を設定します。

設定範囲: **0 フィート (0.0 m) ~ 27 フィート (8.2 m)**

デフォルト設定: **6 フィート (1.8 m)**

**SAVE** を選択して変更を保存し、SPEAKER SETUP (スピーカー設定) メニューに戻ります。

**BACK** を選択し、変更を保存せずにSPEAKER SETUP (スピーカー設定) メニューに戻ります。

**EXIT** を選択し設定を終了します (変更を行ってSAVEを選択していない場合、変更内容を保存するかどうかを聞かれます)。

### CALIBRATION (校正)

SPEAKER CALIBRATION (スピーカー校正) サブメニューを呼び出します。

#### SPEAKER CALIBRATION (スピーカー校正)

オーディオシステムで3個以上のスピーカーとサブウーファーを使用している場合、スピーカー校正を使用して各スピーカーからの音量レベルが、リスニングポジションで同一レベルになるようにすることができます (2チャンネルシステムにはスピーカー校正は必要ありません)。耳に頼るかSPL (音圧レベル) メーターを使用して校正することができます。

## スピーカー校正手順:

- パワーアンプとサブウーファアの電源を入れます。
- **CALIBRATION LEVEL** を選択します。聞こえる信号がちょうどよいリスニングレベルになる (または、SPL メータであらかじめ設定したレベルに達する) ように校正基準レベルを調整します。
- **START** を選択します。信号はシステム内に設置されたスピーカー間を時計回りに移動して、ディスプレイに表示されます。
- 信号が他のスピーカーより大きい音または小さい音のスピーカーに到達したら、リモコンの  $\Delta/\nabla$  キーを使って、必要に応じて音量を調整します。 $\Delta/\nabla$  キーを離して数秒すると、信号は時計方向の次のスピーカーに移動します。
- スピーカーの校正を停止するには、リモコンの **SETUP** を押します。

設定範囲: **-15 dB ~ 15 dB** (0.5 刻み)。

デフォルト設定: **0 dB**

**SAVE** を選択して変更を保存し、**SPEAKER SETUP** (スピーカー設定) メニューに戻ります。

**BACK** を選択し、変更を保存せずに **SPEAKER SETUP** (スピーカー設定) メニューに戻ります。

**EXIT** を選択し設定を終了します (変更を行って **SAVE** を選択していない場合、変更内容を保存するかどうかを聞かれます)。

**BACK** を選択し、**MAIN MENU** (メインメニュー) に戻ります。

**EXIT** を選択し、設定を終了します。

## Source Setup (ソース設定)

EXOTIK に接続している各ソースコンポーネントの下記設定を手順に従って完了してください。



SOURCE SETUP  
# ANALOG GROUP

ソースコンポーネントに接続した背面パネル入力を選択します。

オプション: **SPDIF 1 ~ 3**、**TOS (TOSLINK) 1 ~ 3**、**ANALOG 1 ~ 6**、**ANALOG GROUP**、**KNEKT**

## 注記:

ANALOG GROUP では、ANALOG1、2、3 入力を使用されるため、ソースをANALOG GROUP に割り当てた場合、ANALOG 1、2、3 には割り当てることができません。逆に、ソースをANALOG1、2、3 のいずれかに割り当てた場合、ANALOG GROUP に割り当てることができません。

デフォルトでは、ANALOG GROUP と TOS 1 はLinn UNIDISK プレイヤーに割り当てられています。UNIDISK プレイヤーを使用していない場合で、これらの入力を使用するときは、UNIDISK SOURCE メニューを用いて、ANALOG SOURCE とDIGITAL SOURCE を **NONE** に設定します (12 ページをご参照ください)。次にSOURCE SETUP (ソース設定) メニューを使用してこれらの入力にソースを割り当てることができます。

KNEKT オプションは、General Setup (一般設定) でKNEKT の項目が **LOCAL ROOM** に設定されていない場合は使用できません。(11 ページをご参照ください)

特定の背面パネル入力を使いたくない場合、Type を **NONE** に設定します (次ページ参照)。これで、前面パネルまたはリモコンを使用してソースを選択すると、**NONE** に設定された入力が表示されなくなります。

**NAME (名称)**

選択時にディスプレイに表示するソースの名称を付けることができます。

点滅文字を変更する：

- リモコンまたは前面パネルの△/▽ を繰り返し押すか押し続けます。

次の文字を使用することができます：A～Z、0～9、スペース。

次の文字か前の文字に移動する：

- ▷ または ◁ キーを押します。

名称を入力し終わったら、●かSELECTを押します。

デフォルト設定：(背面パネルの端子名、またはLinn UNIDISK プレイヤーの場合、[UNIDISK])

注記：

名称の長さは最長12文字までです。

名称 [UNIDISK] を変更することはできません。

**TYPE (タイプ)**

ソースのタイプを選びます。リン製ラーニングリモコンに表示されるタイプです。タイプのほとんどは、EXOTIK 同梱のリモコンでソースキーとなっています。

オプション：AUX (補助)、CD、DVD、TUNER、PHONO 1/LASER、PHONO 2/AUX、TAPE 1、TAPE 2/VCR、DAT、TV、CABLE、SATELLITE、NONE

デフォルト設定：AUX (NONE に設定された SPDIF 1、ANALOG 1、2、3、KNEKT 入力を除く)

注記：

Linn UNIDISK に割り当てられた入力 は 予め DVD にタイプが設定されているため、選択オプションはありません。

**VOLUME OFFSET (音量微調整)**

Volume Offset は、他のソースと比較しながらソースの音量を調節します。たとえば、同じ音量設定で再生したときにCD プレイヤーよりラジオ放送の方が小さい音を出す場合、Volume Offset の調整を行います。

設定範囲：-15 ~ 15 (0.5 刻み)。音量微調整値は0にはなりません。

デフォルト設定：0

**SAT (衛星) SOURCE — デジタルソース専用**

ソースが衛星放送、ケーブルテレビ受信機の場合、YES に設定してください。YES に設定することによって、受信機のチャンネル変更の際にも音声信号が安定します。ソースが衛星放送、ケーブルテレビ受信機でない場合、NO に設定してください。

オプション：YES、NO

デフォルト設定：NO

**SURROUND CHANNELS (サラウンドチャンネル)**

ANALOG GROUP ソースを設定しているかLinn UNIDISK プレイヤーを追加して7.1 スピーカー設置の場合、5.1 チャンネルで音声ソースを聴く際に、サイドサラウンドスピーカーまたはバックサラウンドスピーカーのどちらを使用するかを選択できます。

SURROUND に設定し、お使いのサイドサラウンドスピーカーにサラウンド音声信号を送ります。SURROUND BACK に設定し、お使いのバックサラウンドスピーカーにサラウンド音声信号を送ります。

デフォルト設定：SURROUND (サラウンド)

SAVE を選択して変更を保存し、SOURCE SETUP (ソース設定) メニューに戻ります。

BACK を選択し、変更を保存せずにSOURCE SETUP (ソース設定) メニューに戻ります。

EXIT を選択し設定を終了します (変更を行ってSAVEを選択していない場合、変更内容を保存するかどうかを聞かれます)。

BACK を選択し、MAIN MENU (メインメニュー)に戻ります。

EXIT を選択し、設定を終了します。

## Audio Setup (音声設定)



### VOLUME RATE (音量レート)

音量キーを押した際のEXOTIK音量の変更速度を設定します。

設定範囲: 1/10 (最もゆるやか) ~ 10/10 (最も急激)

デフォルト設定: 8/10

### MUTE RATE (ミュートレート)

 を押すかソースが変更された場合に、EXOTIKが音量をミュートまたはミュートを解除する速度を設定します。

設定範囲: 1/10 (最もゆるやか) ~ 10/10 (最も急激)

デフォルト設定: 8/10

### VOLUME LIMIT (音量制限)

EXOTIKの最大音量レベルを設定します。

設定範囲: 0 ~ 100 (0.5 刻み)

デフォルト設定: 100

### VOLUME PRESET (音量プリセット)

スタンバイから起動した際のEXOTIKの音量レベルを設定します。  
これは、設定されたVolume Limitより高く設定することはできません(上記参照)。

設定範囲: 0 ~ 100 (0.5 刻み)

デフォルト設定: 40

### MIDNIGHT MOVIE (深夜映画モード)

DVDビデオでドルビーデジタル信号を圧縮し音量を落とすことができる機能です。爆発シーンなどで瞬間的に増す音量を抑えます。

DVDビデオの再生時、MIDNIGHT MOVIE ON/OFFが前面パネルディスプレイに表示されるまでリモコンの**SURR** を押し続け、次に**SURR** を押してオン/オフを切り替えます(20ページをご参照ください)。

オプション: **LOW** (最小効果)、**MEDIUM**、**HIGH** (最大効果)

デフォルト設定: **LOW**

### DOLBY PRO LOGIC II MUSIC (ドルビープロロジックII ミュージック)

Dolby Pro Logic IIは、ステレオ音声信号を5チャンネル音声信号に変換する音声信号処理アルゴリズムです。

Dolby Pro Logic II Musicは、特に音楽に適したDolby Pro Logic IIのモードです。この項目で利用できるユーザーが調整可能な3つのパラメーターがあります。

#### CENTRE WIDTH (センター幅)

このパラメーターでは、センタースピーカーとフロントスピーカー間の音声信号の調整を可能にします。

[0]に設定すると、センターチャンネルへの音声信号すべてがセンタースピーカーに送られます。

[3]にすると、センターチャンネル信号の一部がフロントスピーカーにも送られます。

[7]にすると、センターチャンネル信号のすべてが、フロント左右スピーカーに等分に分配されます。

設定範囲: 0 ~ 7

デフォルト設定: 3

#### PANORAMA CONTROL (パノラマコントロール)

この機能をONに設定すると、フロントスピーカーの音声信号をサラウンドスピーカーにも拡張して出力します。これにより、サウンドに「包まれる」ような効果が生じます。

オプション: **ON/OFF**

デフォルト設定: **OFF**

### DIMENSION CONTROL (ディメンションコントロール)

このパラメーターでは、フロントとリアのスピーカー間のバランスを変えることができます。プラス値にするとサウンドがフロントへ、マイナス値にするとリアへ移動します。サウンドスピーカーからのサウンドが広がりすぎている、また強すぎると感じられたら、「前へ」移動してバランスを調整します。同様に、フロントスピーカーからの録音が強すぎる場合、サウンドを「後ろへ」移動して臨場感を高めることができます。

設定範囲: **-3** (最も後) から **3** (最も前)

デフォルト設定: **0** (中間)

**SAVE** を選択して変更を保存し、AUDIO OPTIONS (音声オプション) メニューに戻ります。

**BACK** を選択し、変更を保存せずにAUDIO OPTIONS (音声オプション) メニューに戻ります。

**EXIT** を選択し設定を終了します (変更を行ってSAVEを選択していない場合、変更内容を保存するかどうかを聞かれます)。

**SAVE** を選択して変更を保存し、MAIN MENU (メインメニュー) に戻ります。

**BACK** を選択し、変更を保存せずにMAIN MENU (メインメニュー) に戻ります。

**EXIT** を選択し設定を終了します (変更を行ってSAVEを選択していない場合、変更内容を保存するかどうかを聞かれます)。

### General Setup (一般設定)



### DISPLAY INTENSITY (ディスプレイ輝度)

前面パネルディスプレイの明るさを設定します。

オプション: **LOW**、**MEDIUM**、**HIGH**

デフォルト設定: **MEDIUM**

### DISPLAY CONTENT (表示内容)

通常の操作時に本機の前面パネルに表示させたい情報を設定します。

オプション: **LAST USED\***、**SOURCE AND VOLUME**、**VOLUME**、**SOURCE**

デフォルト設定: **SOURCE AND VOLUME**

\* ソース変更の場合、前面パネルに新しいソースが表示され続けます。音量変更の場合、音量レベルが表示され続けます。

### DISPLAY TIMEOUT (ディスプレイタイムアウト)

前面パネルがDisplay Content (上記参照) の表示に戻るまでに、新しい音量やソースの情報が表示される時間を設定します。

設定範囲: **1 SEC** ~ **10 SEC**

デフォルト設定: **2 SEC**

### SLEEP TIMEOUT (スリープタイムアウト)

前面パネルカリモコンでキーを押してから、前面パネルがスリープモード (つまり3つの点を表示する) に入るまでの時間を設定します。

オプション: **NEVER SLEEP**、**IMMEDIATE**、**30 SEC**、**5 MINS**

デフォルト設定: **NEVER SLEEP**

## SELECTION TIMEOUT (選択タイムアウト)

ソース変更時に、本機がソースを選択するのにかかる時間を設定します。

設定範囲: 1 SEC ~ 10 SEC

デフォルト設定: 2 SEC

## STARTUP SOURCE (スタートアップソース)

スタンバイから起動した際に本機が選択するソースを設定します。

オプション: LAST USED、NONE、(ソース入力のいずれか)

デフォルト設定: LAST USED

## STANDBY RECORD FROM (スタンバイレコード)

EXOTIK がスタンバイモードでも、EXOTIK を経由してソースコンポーネントからレコーディング装置への録音が可能です\*。

EXOTIK がスタンバイ状態のとき、どのソースを選択するのかを設定します。

オプション: LAST USED、NONE、(ソース入力のいずれか)、KNEKT\*\*

デフォルト設定: LAST USED

\* レコードバス設定について詳細は、21 ページの「レコーディング機能」の項をご参照ください。

\*\* KNEKT (下記参照) を LOCAL ROOM に設定している場合に使用することができます。

## KNEKT

Linn KNEKT マルチルームシステムでEXOTIKを使用する場合、適切な設定を選択します。EXOTIKの使用がKNEKTシステムではない場合、NONEを選択します。

オプション: NONE、MAIN ROOM、LOCAL ROOM、INTERSEKT

デフォルト設定: NONE

## RCU/IR SOCKET (RCU/IR 端)

背面パネルのRCUと印のついた端子の使用を設定します。

オプション: RCU\* (KNEKT ルームコントロールユニット)、IR (赤外線リピーター)

デフォルト設定: RCU

\* Linn KNEKT システム専用。

## PRODUCT IR (製品IR)

前面パネル赤外線レシーバーを有効にしたり、無効にしたりします。

オプション: ENABLED、DISABLED

デフォルト設定: ENABLED

## RS232 SETUP (RS232 設定)

RS232 SETUP サブメニューを呼び出します。

RS232 Setup サブメニューは、EXOTIK がRS232 を使用できる他の製品 (例えば他社製コントローラー) と通信する場合に使用します。

### BAUD RATE (ボーレート)

ご使用のRS232 プロトコルに合うボーレートを設定します。

設定範囲: 4800 ~ 230400 (設定は9種類)

デフォルト設定: 9600

### PARITY (パリティ)

ご使用のRS232 プロトコルに合うパリティを設定します。

オプション: EVEN、ODD、NONE

デフォルト設定: EVEN

### DATA BITS (データビット)

ご使用のRS232 プロトコルに合うデータビットを設定します。

オプション: 7、8

デフォルト設定: 7

### STOP BITS (ストップビット)

ご使用のRS232 プロトコルに合うストップビットを設定します。

オプション: 1、2

デフォルト設定: 1



**RS232 EVENTS (RS232 情報通信)**

**ENABLED** に設定すると、本機の内部ステータス情報を RS232 データ対応の外部機器に送信します。

オプション: **ENABLED、DISABLED**

デフォルト設定: **DISABLED**

**SAVE** を選択して変更を保存し、GENERAL SETUP (一般設定) メニューに戻ります。

**BACK** を選択し、変更を保存せずに GENERAL SETUP (一般設定) メニューに戻ります。

**EXIT** を選択し設定を終了します (変更を行って **SAVE** を選択していない場合、変更内容を保存するかどうかを聞かれます)。

**ANALOG 6 TYPE**

この項目は、内蔵 phono stage (6/PHONO 入力に接続) の設定を表示するものです。**PHONO MM** (moving-magnet)、**PHONO MC** (moving-coil)、**LINE LEVEL** のいずれかが表示されます。内蔵 phono stage が再設定された場合、表示の設定は自動的に更新されます。

**SAVE** を選択して変更を保存し、MAIN MENU (メインメニュー) に戻ります。

**BACK** を選択し、変更を保存せずに MAIN MENU (メインメニュー) に戻ります。

**EXIT** を選択し設定を終了します (変更を行って **SAVE** を選択していない場合、変更内容を保存するかどうかを聞かれます)。

**UNIDISK Source (UNIDISK ソース)**

EXOTIK のデフォルト設定は、Linn UNIDISK プレイヤーをソースとして受け入れるように設定されています (14 ページの「Linn UNIDISK プレイヤーと EXOTIK を接続して使用する」を参照してください)。以下に示すデフォルト設定に対して、異なる背面パネル入力を使用する場合、このメニューを使用します。

**ANALOG SOURCE (アナログソース)**

オプション: **ANALOG GROUP、ANALOG 1 ~6、NONE**

デフォルト設定: **ANALOG GROUP**

**DIGITAL SOURCE (デジタルソース)**

オプション: **SPDIF 1 ~3、TOS (TOSLINK) 1 ~3、NONE**

デフォルト設定: **TOS 1**

**SAVE** を選択して変更を保存し、MAIN MENU (メインメニュー) に戻ります。

**BACK** を選択し、変更を保存せずに MAIN MENU (メインメニュー) に戻ります。

**EXIT** を選択し設定を終了します (変更を行って **SAVE** を選択していない場合、変更内容を保存するかどうかを聞かれます)。

注記:

Linn UNIDISK プレイヤーが同梱の RS232 コードで EXOTIK に接続されていない場合 (14 ページの「Linn UNIDISK プレイヤーと EXOTIK を接続して使用する」を参照してください)、「UNIDISK」は使用できるソースとして前面パネルに表示されません。

UNIDISK プレイヤーを使用していない場合で、ANALOG GROUP、TOS 1 のいずれかの入力、または両方を使用するときは、上記の項目を **NONE** に設定します。

使用したい入力オプションの中に表示されない場合、すでにその入力はソースに割り当てられています。この場合、Source Setup (ソース設定) メニューで必要とする背面パネル入力を選択し、Type を **NONE** に設定して変更を保存します。次に UNIDISK Source メニューを呼び出すと、新しい入力を使用可能となっています。

## Installer Menu (インストーラーメニュー)

インストーラーメニューを呼び出す：

- リモコンのAMPを押した後 **SETUP** を押し続けるか、前面パネルの**SELECT** を押し続け (約5秒間)、ディスプレイに「INSTALLER MENU」を表示します。



### SAVE AS INSTALLER (インストーラーとして保存)

EXOTIK の設定後、この項目を選択すると設定を保存できます。EXOTIK の設定が変更されたときにはいつでも、保存されたインストーラー設定に戻すことができます (以下を参照してください)。本機のセットアップについて行った変更を保存したい場合は、この項目を選択すれば保存され、既存のインストーラー設定を上書きします。

### RESTORE INSTALLER (インストーラー設定に戻す)

EXOTIK のセットアップについて行った変更を保存したくない場合、このオプションを使用して、インストーラー設定に戻してください。

### RESTORE FACTORY (出荷時のデフォルト設定に戻す)

このオプションを使用して、すべてのセットアップメニューをもとのデフォルト設定に戻すことができます。

### H8 SOFTWARE VERSION (H8 ソフトウェアのバージョン)

本機にインストールされたソフトウェアのバージョンを表示します。

## Linn UNIDISK プレイヤーとEXOTIK を接続して使用する

Linn UNIDISK プレイヤーをEXOTIK に接続して使用すると、次のようなメリットがあります。

- UNIDISK プレイヤーがディスクを読み込み、UNIDISK がEXOTIK でソースとして選択されると、EXOTIK は読み込まれたディスクの必要な入力に自動的に切り替わります。
- EXOTIK はディスクのオーディオストリームに適したサラウンドサウンドフォーマットを選択します。
- EXOTIK 用またはUNIDISK プレイヤー用のリモコンどちらでも、2 台の機器の競合なしに使用できます。
- EXOTIK のMain Menu (メインメニュー) セットアップ項目のUNIDISK Setup オプション経由でUNIDISK プレイヤーのセットアップメニューを使用することができます (つまりUNIDISK Setup を選択している場合UNIDISK プレイヤーのセットアップメニューが接続されている装置のディスプレイに表示されます)。

Linn UNIDISK プレイヤーをEXOTIK と接続して使用する場合、下記の説明に従ってください。

1. 全機器のスイッチを切ります。
2. 接続：
  - UNIDISK プレイヤーのFRONT A またはB、SURR、CENTRE、およびSUB ライン出力端子をEXOTIK の5.1 GROUP 入力 (RCA フォノノードが6本必要となります) に接続します。
  - UNIDISK プレイヤーからのTOSLINK 出力端子をEXOTIK のTOSLINK 1 入力 (Toslink リードが必要となります) に接続します。

注記：  
上記の接続は、UNIDISK プレイヤーをEXOTIK に追加するためのデフォルト入力です。EXOTIK に他の入力 (FRONT のみ、SPDIF 入力など) を使用する場合、選択した入力を記録し、下記の手順 11 でUNIDISK SOURCE メニューの設定を変更します。
3. UNIDISK プレイヤーから使用するビデオ出力をご使用のディスプレイ装置へ接続します。
4. EXOTIK のRS232 OUT のRS232 製品接続コード (EXOTIK 付属) をUNIDISK プレイヤーのRS232 IN に接続します。
5. EXOTIK のREMOTE OUT をUNIDISK プレイヤーのREMOTE IN (RCA フォノノードが必要となります) に接続します。
6. 全機器のスイッチを入れます。

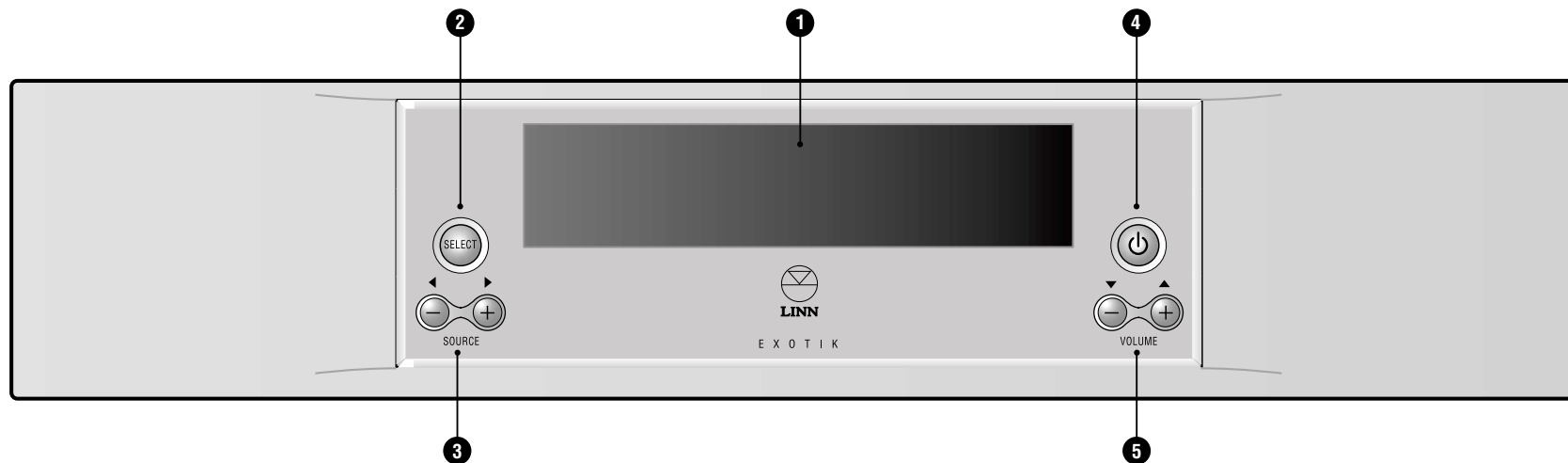
7. UNIDISK プレイヤーで User Options (ユーザーオプション) を入力します。  
設定：  
Front Panel IR Command/Enable IR Commands を **IGNORED** または **OFF**、  
RS232 Events/Enable RS232 Events を **ENABLED** または **ON**、  
Baud Rate (ボーレート) を **9600** に設定します。  
(また、UNIDISK SC では Knekt Mode を **SOURCE** に設定します。)
8. User Options (ユーザーオプション) を終了します。
9. EXOTIK のGeneral Setup (一般設定) メニューに入ります。
10. RS232 Setup (RS232 設定) サブメニューを呼び出します。  
設定：  
Baud Rate (ボーレート) を **9600**  
Parity (パリティ) を **EVEN**  
Data Bits (データビット) を **7**  
Stop Bits (ストップビット) を **1**  
RS232 Events (**いずれかの設定**)  
  
以上の設定を保存します。
11. UNIDISK プレイヤーにデフォルト入力を使用していない場合 (つまりANALOG GROUP およびTOS 1)、EXOTIK でUNIDISK ソースメニューを用いて、必要に応じてANALOG SOURCE とDIGITAL SOURCE 設定を変更します (12 ページを参照)。
12. Source Setup (ソース設定) 画面に入ります。UNIDISK プレイヤーで使用している背面パネル入力を選択し、SAT SOURCE とSURROUND CHANNELS 設定を必要に応じて調整します (8 ページを参照)。

## 前面パネルとリモコン

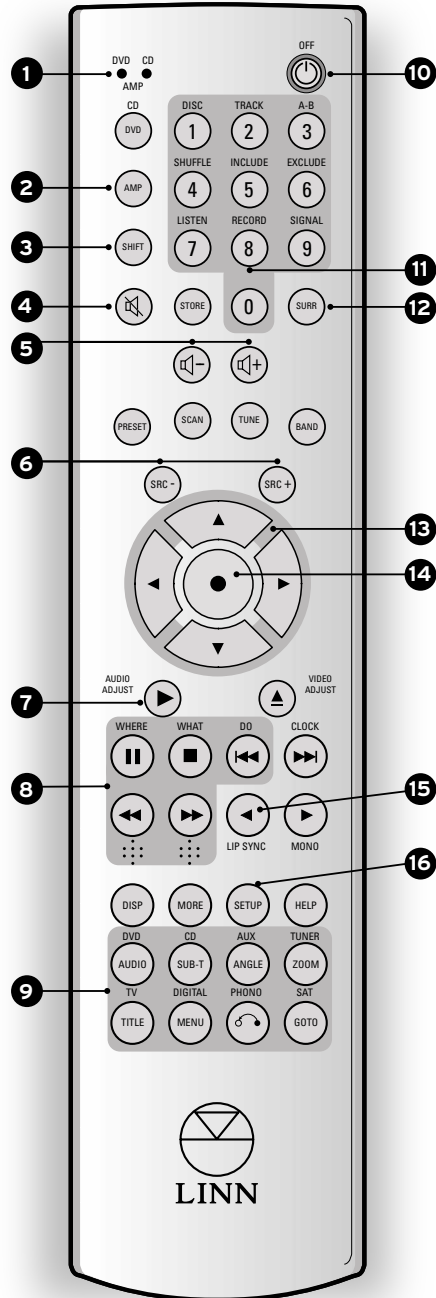
### 前面パネルのディスプレイ

前面パネルのディスプレイには、その時点における音声に関する情報が表示されます。現在の音量、現在のソースのいずれかあるいは両方が入力音声信号と音声処理フォーマットとともに表示されます。またセットアップメニューと、その時点の作動内容により他の情報も表示されます。

### 前面パネルのレイアウト



- 1 前面パネルのディスプレイ
- 2 **SELECT** オプションおよび特定のコマンドを選択/実行します。セットアップメニューを呼び出します
- 3 **SOURCE** -/+、</> ソースを変更し、設定を調整します
- 4 **⏻** スタンバイモードのオン/オフを切り替えます
- 5 **VOLUME** -/+、▽/△ 音量を調整したり、セットアップメニューで設定を調整します



## リモコン

- ① **LED** キーを押しているときのリモコンの状態を表示します
- ② **AMP** リモコンをAmp (アンプ) モードにします(青色で表示された機能を使用できます)
- ③ **SHIFT** RECORD、OFFの各機能を使用可能にします
- ④ 音声のミュート(消音) / ミュート解除を切り替えます
- ⑤ / 音量レベルを調整します
- ⑥ **SRC - / SRC +** ソースを選択します
- ⑦ **AUDIO ADJUST** スピーカーのバランスとトリムを調整します。音声設定をリセットします
- ⑧ **KNEKT キー** 本機をLinn KNEKT システム内で使用するときに使います
- ⑨ **直接ソースキー** ソースを直接選択するキーです
- ⑩ スタンバイモードのオン/オフ切り替え。  
弊社の使用可能な全機器に「オフ」(スタンバイ状態になる) コマンドを送ります
- ⑪ **RECORD** レコードパスの設定/変更を行います
- ⑫ **SURR** サラウンドサウンドのフォーマットを選択します。深夜映画モードのオン/オフを切り替えます
- ⑬ セットアップメニューの項目を選び、設定を調整します
- ⑭ オプションおよび特定のコマンドを選択/実行します
- ⑮ **LIP SYNC** Lip Sync 遅延機能にアクセスします
- ⑯ **SETUP** セットアップメニューの開始と終了

リモコン上の上記以外のキーおよび機能は本機では使用しませんが、弊社の他製品で使用できます。


注記：

EXOTIKがリモコンキーでうまく操作できない場合、リモコンがAmpモードになっていない可能性があります。この場合、リモコンの**AMP** キーを押してください。

## 操作

### スタンバイキー

スタンバイモードと操作モードを切り替える：

- 前面パネルまたはリモコンの  を押します。

### Amp モード

次の機能を使用するには、リモコンを Amp モードにしておく必要があります。

- 直接ソース選択(例：CD キーを押すことによってCD ソースを選択する)
- バランスまたはスピーカートリムの調整
- Lip sync 遅延の調整

リモコンを Amp モードにするには、リモコンの **AMP** キーを押します。他の全ての機能については、リモコンを Amp モードにする必要はありません。

### ソースの選択

聴きたいソースを選択する：

次の手順を行います。

- 前面パネルの **SOURCE -/+** キーあるいはリモコンの **SRC -/+** キーを押し続けるか、あるいは繰り返し押します。すべての使用可能なソースの中から選択できるようになります。
- 前面パネルディスプレイに希望のソースが表示されたら、キーから手を離し、前面パネルの **SELECT** を押すか、本機が自動的にソースを選択するのを待ちます。



下記の方法でも選択できます(リモコンは Amp モードにしておく必要があります。上記参照)

- リモコンの該当するソースタイプキー(例：DVD や CD) を押します。(Linn UNIDISK プレイヤーの場合、「DVD」を押します)
- $\Delta/\nabla$  キーを使って、使用可能なソースの中から使用するソースを選択します。
- 前面パネルディスプレイに希望のソースが表示されたら、**●** を押すか、本機が自動的にソースを選択するのを待ちます。

### 音声の調整

#### 音量

音量を調節する：

- 前面パネルの **VOLUME -/+** またはリモコンの  / + を繰り返し押すか押し続けます。

音量は0.5 刻みで0 ~100 の範囲で選択できます。

**バランス**(リモコンは Amp モードにしておく必要があります)

全スピーカートのバランスを調整する(センタースピーカーおよびサブウーファーを除く)

- リモコンの **AUDIO ADJUST (調整)** を押します。

前面パネルのディスプレイに **BALANCE** と表示されます。

- バランスを右へ動かすには  $\triangleright$  を繰り返し押すか押し続け、左へ動かすには  $\triangleleft$  を使います。

バランス範囲は、左へ10段階、右へ10段階です。0がニュートラルとなります。

**スピーカートリム**(リモコンは Amp モードにしておく必要があります)

この機能は、3個以上のスピーカーを使用しているシステム用です。

音楽を聴いたり DVD ビデオを見ている際に、センター、サラウンド、バックサラウンドスピーカーやサブウーファーの音量レベルを、他のスピーカーに影響を与えずに調整したい場合があるかもしれません。これはスピーカー音量トリムを調整して行います。

スピーカー音量のトリムを行う：

- リモコンの**AUDIO ADJUST (調整)** を繰り返し押し、前面パネルディスプレイに調整したいスピーカーを表示させます。
- 前面パネルからリモコンの</> を繰り返し押すか押し続けて、スピーカートリムの量を増減します。

音量トリム範囲は-10.0 ~ 10.0 (0.5 刻み) です。ニュートラルは0です。

注記：

**AUDIO ADJUST** を繰り返し押したときに表示されるスピーカーは、システムで使用しているスピーカー数とその時点で選択されているサラウンドサウンドフォーマットによって異なります。

### Lip Sync 遅延

DVD ビデオによっては、動き (例：俳優の口の動き) が音声より遅れる場合があります。この現象は、本機のLip Sync 遅延機能で音声が映像と同期化するまで遅らせることによって修正することができます。

### Lip Sync 遅延の調整

- リモコンの**LIP SYNC** を押します。
- $\Delta$  を繰り返し押すか押し続けると音声信号がより遅延し  $\nabla$  を繰り返し押すか押し続けると遅延が減少します。これを映像と音声と同期化するまで行います。

Lip Sync 遅延の範囲は、10 ミリ秒刻みで、0 ~ 250 ミリ秒です。

注記：

Lip Sync 遅延は、デジタルソースにのみ使用でき、DTS 音声信号では使用できません。

### サラウンドサウンドのフォーマット

優れたオーディオ体験を楽しんでいただくために、EXOTIK は幅広いサラウンドサウンドフォーマットに対応しています。

### サラウンドサウンドのフォーマットを変更する：

- リモコンの**SURR** を繰り返し押し、前面パネルのディスプレイに希望のフォーマットを表示させます。

使用できるサラウンドサウンドのフォーマット、およびそれぞれの概要は以下のとおりです。

サラウンドサウンドのフォーマット	内容
Dolby Digital	DVD ビデオなどのディスクに5.1チャンネルの音声信号を保存する規格
Dolby Digital EX	サラウンドスピーカーに伝えられるDolby Digital 5.1 音声信号を変換して、7.1 音声用の2個のバックスピーカーにまで拡張します
Dolby Pro Logic II*	サラウンドサウンドではない音声信号をサラウンドサウンド5.0 信号に変換します
Dolby Pro Logic II Music*	Dolby Pro Logic II と同じですが、特に音楽向けです。本機のセットアップメニューからアクセスできるユーザーが調整可能な3つのパラメーターがあります
DTS Digital Surround	DVD ビデオなどのディスクに5.1チャンネルの音声信号を保存する規格
DTS 96/24	DTS デジタルサラウンドと同じですが、よりよい音質を生み出します
DTS ES Matrix	サラウンドスピーカーに伝えられるDTS 5.1 音声信号を変換して、7.1 音声用の2個のバックスピーカーにまで拡張します

\* これらのフォーマットを聞くためには、フルサラウンドサウンドスピーカーシステムは必要ありません。システムでフロントスピーカー (およびサブウーファー) 以外も使用している場合、これらフォーマットのどれを選択した場合も信号は5.0 信号に変換され、システム内のスピーカーの数にあわせてダウンミックスされます。

続き

サラウンドサウンドのフォーマット	内容
DTS ES Discrete	DVD ビデオなどのディスクに6.1チャンネルの音声信号を保存する規格。EXOTIKでは、6.1音声を7.1音声に変換して、追加のチャンネルを2個のバックスピーカーにまで拡張させることができます
DTS 96/24 ES Matrix	サラウンドサウンドスピーカーに伝えられる5.1音声を7.1音声に変換して、2個のバックスピーカーに拡張し、DTS デジタルサラウンドよりも更に高い音質を生み出します
Phantom	センターチャンネルに送られる5.1または7.1の音声信号を、左右のフロントスピーカーに伝えます
3 Stereo	5.1または7.1の音声信号をダウンミックスして、フロントスピーカーとセンタースピーカーにだけ伝えます
Stereo Sub	5.1の音声信号を2チャンネルの信号にダウンミックスして、フロントスピーカーとサブウーファーに送信します。ステレオ信号をフロントスピーカーとサブウーファーに送信します
MPEG Stereo	MPEG ファイルで2チャンネル音声を保存する規格
MPEG Surround	MPEG ファイルでサラウンドサウンド音声を保存する規格
AAC Stereo	2チャンネル音声を保存する規格
AAC Surround	サラウンドサウンド音声を保存する規格
LIMBIK Party	本質的に同じ音声信号をお使いのシステム内のすべてのスピーカーに送信するリンのアルコリズムです

2チャンネルで使用できるサラウンドサウンドフォーマットとサラウンドサウンド入力信号は、下記の表に記載しています。

### 2チャンネル音声入力

	アナログ信号	PCMステレオ信号	LtRtダウンミックス信号*	LtRtダウンミックス(Pure Stereo)信号*
Stereo	2.0	2.0	2.0	2.0
Dolby Pro Logic II**	5.0	5.0	5.0	5.0
Dolby Pro Logic II Music**	5.0	5.0	5.0	5.0
LIMBIK Party	5.0 & 7.0	5.0 & 7.0	-	5.0 & 7.0
Stereo Sub	2.1	2.1	2.1	2.1

\* Linn UNIDISK 1.1または2.1のプレイヤーをご使用の場合、UNIDISKのオーナーズマニュアル11ページ「ダウンミックス」の項をご参照ください。

\*\* これらのフォーマットを聞くためには、フルサラウンドサウンドスピーカーシステムは必要ありませんシステムでフロントスピーカー(およびサブウーファー)以外も使用している場合、これらのフォーマットのどれを選択した場合も信号は5.0信号に変換され、システム内のスピーカーの数にあわせてダウンミックスされます。

### サラウンドサウンド音声入力

	Dolby	DTS	MPEG	AAC	アナログ信号
Stereo	2.0	-	-	-	2.0
Phantom	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1
3 Stereo	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1
Stereo Sub	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1
Dolby Digital	5.1	-	-	-	-
Dolby Digital + Dolby Digital EX	7.1	-	-	-	-



続き

	Dolby	DTS	MPEG	AAC	アナログ 信号
DTS Digital Surround	-	5.1	-	-	-
DTS 96/24	-	5.1	-	-	-
DTS ES Matrix	-	7.1	-	-	-
DTS ES Discrete	-	7.1	-	-	-
DTS 96/24 ES Matrix	-	7.1	-	-	-
MPEG Stereo	-	-	2.0	-	-
MPEG Surround	-	-	5.1	-	-
AAC Stereo	-	-	-	2.0	-
AAC Surround	-	-	-	5.1	-
LIMBIK Party	5.0 & 7.0	5.0 & 7.0	5.0 & 7.0	5.0 & 7.0	-

注記:

使用できるサラウンドサウンドフォーマットは、処理される信号タイプによって決まります。

サラウンドサウンドフォーマットを選ぶ際、現在の音声信号用のデフォルトフォーマットは、前面パネルディスプレイで例えば\*stereo\*のように「\*」付きで表示されます。

## 深夜映画モード

DVD ビデオでドルビーデジタル音声信号を圧縮し音量を落とすことができる機能です。爆発シーンなどで瞬間的に増す音量を抑えます。

### 深夜映画モードのオン/オフ

- リモコンの **SURR** を押し続けて、ディスプレイに MIDNIGHT MOVIE MODE ON/OFF を表示させます。
- **SURR** を押してオン/オフを切り替えます。

深夜映画モードがオンになっていると、前面パネルディスプレイに MIDNIGHT と表示が出ます。

注記:

圧縮の程度は、Audio セットアップメニュー内の Midnight Movie の項目を使用して調整することができます(9 ページの [Midnight Movie] の項をご参照ください)。

### もとの音声設定に戻す

上記のすべてのオーディオ設定をニュートラル/デフォルトに設定し直す:

- リモコンの **AUDIO ADJUST** を押し続けて、前面パネルディスプレイに AUDIO SETTINGS RESET と表示させます。

## レコーディング機能

レコーディング機能により、音声信号を EXOTIK 経由で DAT レコーダーなどの録音装置に送信することができます。下記の表には、EXOTIK の送信機能の詳細を記載しています。

	アナログ出力	デジタル出力
アナログソース	あらゆるアナログソースをアナログ出力することができます	アナログソースをデジタル出力することはできません
デジタルソース	現時点で再生しているデジタルソースのみアナログ出力できます	現時点で再生しているデジタルソースのみデジタル出力できます

### レコードパスをセットする:

- リモコンの **SHIFT** を押してから **RECORD** を押します。
- $\Delta/\nabla$  キーでレコーディングしたいソースを選び、● を押します。
- レコーディングにしたいモードを  $\Delta/\nabla$  キーで選択し、● を押します。

ソースのリストに関する注記:

NO SOURCE: レコードパスが設定されません。

KNEKT: EXOTIK のレコードパスを使用すると、KNEKT Line Driver システムをお使いの方はこの設定により再生中のソースを変更できます (レコードパスも変更されます)。レコードパスを保護するには、必要なレコーディングオプションを選択します。レコーディングが完了したら、KNEKT オプションを再度選択します。

レコーディングのモードは次の通りです。

オプション	説明
LtRt 44.1 kHz LtRt 48 kHz LtRt 88.2 kHz LtRt 96 kHz	お使いのレコーディング装置の動作周波数に合うオプションを選びます。(これらのオプションで、マルチチャンネル信号はダウンミックスされて2チャンネルとなります)
LtRt As Input	出力周波数は入力周波数と同じ、マルチチャンネル信号はダウンミックスされて2チャンネルとなります
Bit Perfect	出力周波数は入力周波数と同じで、信号の処理は行われません
Analog	音声信号をアナログ出力します

注記:

選択したソースからの音声信号は、全てのアナログおよび/または全てのデジタル出力に同時に送信されます。レコーディング装置をどの出力に接続しているかを指定する必要はありません。

使用可能なレコーディングモードは、入力信号がアナログかデジタルかによって決まります。

著作権保護のため、オーディオ、ビデオのディスクによっては、録音を妨げるシステムが組み込まれていることがあります。

## 仕様

## 電氣的

電源 AC 100-230 V @ 50-60 Hz

## 重量と寸法

重量 3.7 kg, 8 lb 2 oz

外形寸法 381 (幅) x 368 (奥行) x 80 (高さ) mm

## 信号インターフェイス — 入力

Type (タイプ)	端子	レベル	インピーダンス	備考
デジタル電気入力 (SPDIF)	3 x RCA	500 mVp-p	75 Ω	—
デジタル オプティカル入力	3 x TOSLINK	—	—	—
ラインレベル	12 x RCA	2 Vrms	10k Ω	アナログ
MM phono	2 x RCA	70.0 mV ピーク @ 1 kHz、 +40 dB @ 1 kHz	48k Ω 68 pf	—
MC phono	2 x RCA	ハイゲイン(デフォルト) 5.0 mV ピーク @ 1 kHz、 +64 dB @ 1 kHz ローゲイン (販売店で設定可能) 15 mV ピーク @ 1 kHz、 +54 dB @ 1 kHz	180k Ω 10nf	—

## 信号インターフェイス — 出力

Type (タイプ)	端子	レベル	インピーダンス	備考
デジタル電気出力 (SPDIF)	1 x RCA	500 mVp-p	75 Ω	—
デジタル オプティカル出力	1 x TOSLINK	—	—	—
ラインレベル	8 x RCA	2 Vrms	330 Ω	サラウンド出力
ラインレベル	2 x RCA	2 Vrms	330 Ω	レコード出力

## コントロールインターフェース

Type (タイプ)	ポート名	ピンコネクタ:
RS232	In	Rx = 3, Tx = 2, Ov = 5
RS232	Out	Rx = 5, Tx = 4, Ov = 2

## 保証とサービス

本製品はお買い上げになった国できちんご使用いただけるように調整されており、お客様の合法的権利が制限を受けることはありません。加えて、製造上の欠陥によってトラブルが発生した場合には、弊社が無償にて部品を交換いたします。詳しくは販売店までお問い合わせください。

ヨーロッパの各地、アメリカ合衆国、その他いくつかの市場では、お買い上げをご登録いただいたお客様に対して、拡大保証が適用される場合があります。製品に添付された登録カードには販売店のスタンプが必要です。なるべく早めにご返送ください。あるいはwww.linn.co.ukからオンラインで製品の登録ができます。

### 警告

製品をむやみに改造解体した場合は保証が無効になります。ユーザーが修理・調節すべき内部部品はありません。製品サービスに関するすべての問い合わせは正規販売店でのみ対応しています。

### 技術サポート、お問い合わせ

技術サポート、製品についてのお問合せは、最寄りの販売店またはリン・ジャパンまでご連絡ください。

販売店・代理店の詳細については、下記のリンのウェブサイトwww.linn.co.ukにてご確認ください。

www.linn.co.uk

### 重要

- 製品を購入した日付などを記載した領収書を保存しておいてください。
- 修理のための輸送の際には、必ず製品に保険をかけてください。

### Linn Products Limited

Glasgow Road  
Waterfoot  
Eglesham  
Glasgow G76 0EQ  
Scotland, UK

電話: +44 (0)141 307 7777  
FAX: +44 (0)141 644 4262  
ヘルプライン: 0500 888909  
電子メール: helpline@linn.co.uk  
ウェブサイト: www.linn.co.uk

### Linn Incorporated

8787 Perimeter Park Boulevard  
Jacksonville  
FL 32216  
USA

電話: +1 (904) 645 5242  
FAX: +1 (904) 645 7275  
ヘルプライン: 888-671-LINN  
電子メール: helpline@linninc.com  
ウェブサイト: www.linninc.com

### Linn Deutschland GmbH

Hühnerposten 1d  
D-20097 Hamburg  
Germany

電話: +49-(0) 40-890 660-0  
FAX: +49-(0) 40-890 660-29  
電子メール: info@linngmbh.de  
ウェブサイト: www.linn.co.uk